



①「かんぱ〜い！」 上北谷地区の人たちとの交流会
②ミルクヨーカンづくりの体験「噴きこぼさないようにね」
③健康運動教室の視察
④「これは学校給食用だ」その説明に感心。農業体験
⑤レンタサイクルで街並みを散策する人も

秋の見つけ隊が巡ったルート

11月13日(土)

- 見附市に集合
- 結団式とミルクヨーカンづくり体験 (ネーブルみつけ)
- ランチタイム (各自で見附のお店でランチ)
- いきいき健康づくりセンター見学
- 農業体験 (キウイフルーツの収穫・池之島町小川さん)
- 夕食・交流会 (上北谷地区ふるさとセンター)
- ホテルに戻り、有志で「昭和レトロ巡り」

14日(日)

- とれたて野菜の直売所訪問 (上北谷ゆめづくり協議会)
- 見附の観光スポット巡り (名木野湯 新潟県の重心地 みつけイングリッシュガーデン 大平森林公園)
- 聴風庵 (石地町) で昼食
- 解団式 (ネーブルみつけ)
- 各自で見附を散策 (レンタサイクル、自家用車など)
- 解散

もてなした地域の声



上北谷ゆめづくり協議会事務局
吉野盛之さん

交流会は、上北谷の食材100%の料理と田舎の素朴さ・純朴さを前面に出して、歓迎の熱い思いを表現しました。コミュニティの地域振興部会のお母さんたちを中心に12品の料理を作りました。こんにやくなど、中には時間をかけて作ったものもあるんですよ。喜んでいただけて、こちら側も「めんどろしたかいがあった」と喜んでます。「また、やるねっか」と盛り上がっている人もいますよ。
見つけ隊の方たちがプロデュースする見附のツアーがどんな風になるのか楽しみにしています。

いいとこ見つけ隊の隊員たちの声



旅行会社に勤める隊員
福田進太郎さん
(栃木県宇都宮市)

見附市は、ネーブルみつけのような「新しいまち」と上北谷地区に行った時や「昭和レトロ巡り」をした時に感じたような「昔の名残があるまち」の両方が共存しているなど思いました。
今回一番印象に残っているのは、上北谷の人たちとの交流会です。もてなしがすごく良く、料理も「山の幸」という感じでおいしく頂きました。
交流会の時に方言で語られた昔話もすごくひきこまれましたね。



姉妹で参加した隊員
広瀬美和さん (千葉県千葉市)
葉山美佐さん (千葉県酒々井町)

交流会が一番印象的でした。普通に旅行しても、ここまでどっぷりと地元の人と触れ合う機会はないですから。地元のお母さんたちは、「これは自分が作ったのかわかる料理を食べられるのは、ぜったい贅沢だと思います」。
ミルクヨーカンづくりの体験、農業体験なども都会の子どもは喜ぶと思います。
見附の全体的なイメージは「田舎・ふるさとに帰ってきたな」という雰囲気でしたね。



新潟県の重点ポイントパーク

11月13日(土)午前11時、隊員はそれぞれ見附に集合。ちなみに交通費や宿泊費はすべて自費です。
まずは、結団式と見附の名物スイーツ、ミルクヨーカンづくりの体験。昼食をとって、初対面同士の緊張が多少ほぐれたところで、健康運動教室を視察しました。隊員からは「運動を継続するしくみがよく作られている」と感心する声もありました。
農業体験を楽しんだ後、隊員たちは、上北谷地区ふるさとセンターで開かれた夕食を兼ねた交流会に参加しました。迎えたのは、地元の地域コミュニティ組織「上北谷ゆめづくり協議会」の人たち21人。テーブルに所狭しと並べられたのは、地元のお母さんたちが心を込めて作った地元食材100%の手料理です。見附の方言たっぷりの民話も披露されるなど、交流会は大いに盛り上がりました。
地元の人たちとの別れを惜しみながら、隊員たちは一度宿泊するホテルに戻りました。しかし、隊員たちの調査はまだ続きます。そこから、「昭和レトロ巡り」と称して、本町周辺の飲食店街に出かけていき、長い夜を楽しみました。
14日(日)朝、隊員は再び上北谷へ。

地元の人のもてなしに感動。
外からの目線で見附の隠れた魅力を見つけた

見附の隠れた魅力、気づかない魅力を外からの目線で再発見したい。そんな、いいとこ見つけ隊の「秋の見つけ隊」が見附市を訪れ、まちの魅力調査を行いました。
いいとこ見つけ隊は、市が旅行大手のJTBとインターネットサイト「たまけん」(※)と連携して呼び掛けたものです。
「秋の見つけ隊」に集まった隊員は、関東や首都圏をはじめとする市外の人たち13人。わたしたちにとっては見慣れたまち、見慣れた人たち。外から見るとどのように見えたのでしょうか。

隊員たちの2日間

上北谷ゆめづくり協議会が8月に始めた、野菜の直売所を訪ねました。前日の交流会ですっかり顔なじみになった地元の人たちとの再会です。「やあ〇〇さん！」と声を掛け合い、隊員たちはそれぞれ、前日に味わった新鮮野菜などを購入していました。その後は、見附の観光スポットを巡り、各自でまちを散策するなどして、2日間の調査が終了しました。

解団式で語られた
隊員の声

「地元の人の手料理ともてなしは旅館では味わえないもの。新鮮でした」 (東京都男性隊員)
「今回来るまで見附がどこにあるのかも分かりませんでした。今回は駆け足でしたが次回、ゆっくり来てみたいですね。いいまちだと感じました」 (東京都女性隊員)
「地元の人と触れ合ってみて、コミュニティの強さを感じました。人を前面に出していけばよいと思います」 (群馬県男性隊員)
「上北谷のお母さんたちが『どきどきしながら料理を出した』と言っていました。素材のおいしさも感じましたし、味付けも上品でした。自信を持って出しているものだと思います。感動しました」 (神奈川県男性隊員)